

FY2023 / 2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

2023年11月16日

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 松尾 敏夫

【ご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

PART I

2024年3月期 第2四半期実績

- 05 受注高・売上高・利益の状況
- 06 営業利益増減要因
- 07 セグメント別
- 08 産業機械事業
- 09 素形材・エンジニアリング事業

PART II

2024年3月期 通期計画

- 11 受注高・売上高・利益の計画
- 12 営業利益増減要因
- 13 セグメント別
- 14 産業機械事業
- 15 素形材・エンジニアリング事業
- 16 受注残高の推移と予想
- 17 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、
研究開発費の状況
- 18 JGP2025の配当方針と実績

PART III

事業概況

- 20 産業機械事業 主要製品の今期受注概況
- 21 素形材エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況
- 22 樹脂製造機械と設備増強の状況
- 23 フィルム・シート製造装置の状況
- 24 成形機 - マグネシウム成形機事業の概要と展望
- 25 電力・原子力製品の状況

参考資料：

事業セグメントの構成と主要製品 / 売上高・営業利益・純利益の推移 / 主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移 / Purposeを起点とする企業理念体系“*Our Philosophy*”

[PART I]

2024年3月期 第2四半期実績

受注高・売上高・利益とも前期同期を上回る

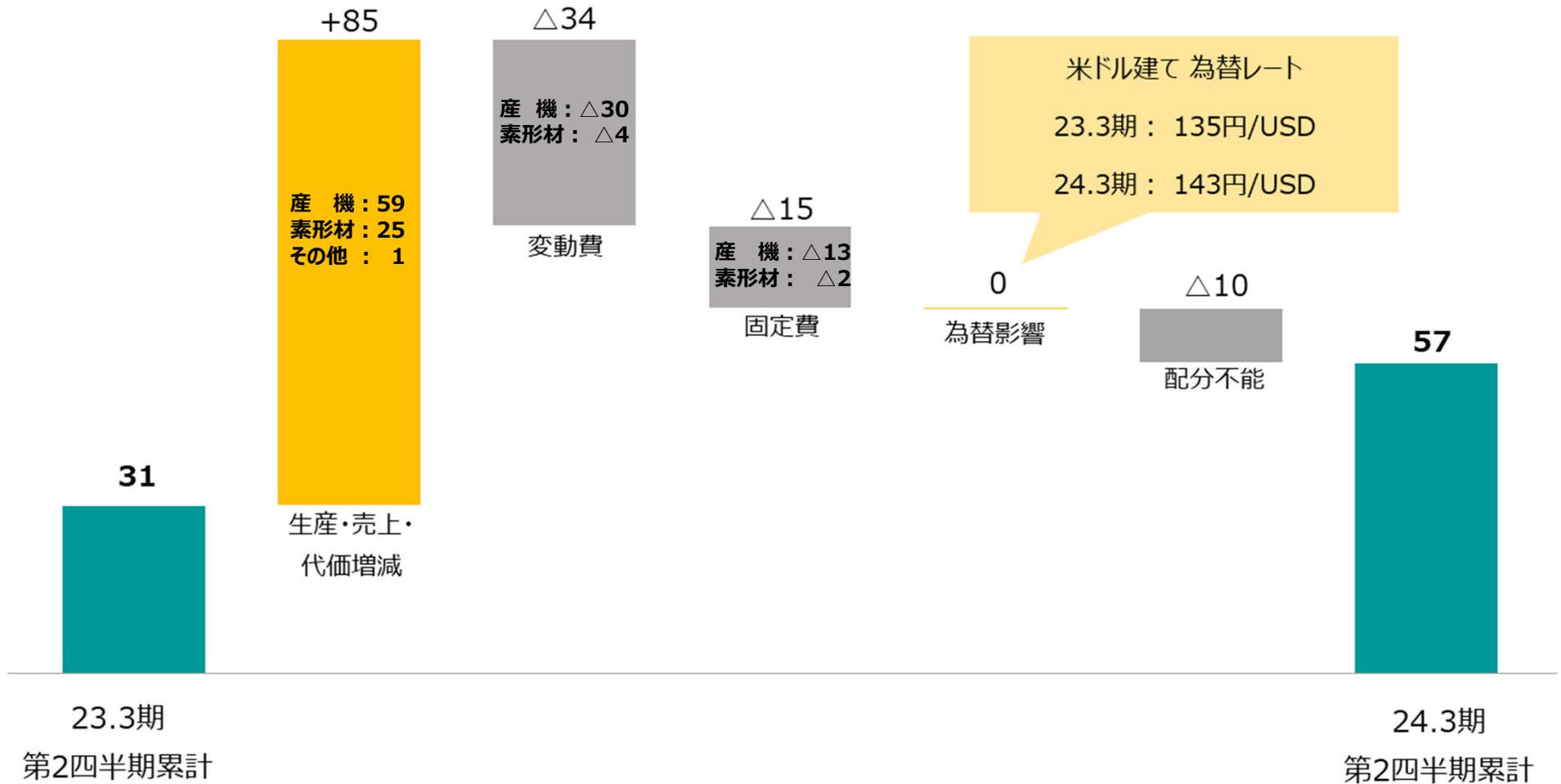
(単位：億円)

	23.3期 第2四半期累計 (A)	24.3期 第2四半期累計 (B)	前年同期比 (B) - (A)	24.3期 修正通期予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
受注高	1,642	1,659	17	3,380	49.1%
売上高	1,036	1,101	65	2,800	39.3%
営業利益 (率)	31 3.0%	57 5.2%	26	185 6.6%	30.8%
経常利益	42	67	25	190	35.3%
純利益	17	47	30	140	33.6%
1株当たり 純利益 (円)	23.93	64.73	40.80	190.26	34.0%
1株当たり 配当金 (円)	29.0	29.0	0.0	58.0	50.0%

※ 今回、全社業績予想は修正していませんが、全社受注予想並びにサブセグメントの売上・受注予想を修正しております。
本資料では、本年5月時点での予想を「当初予想」、11月時点での予想を「修正通期予想」と表示しております。

売上増と代価改善により、前年同期比26億円増益

(単位：億円)



両セグメントとも、前年同期比 増収・増益

産業機械事業

(単位：億円)

	23.3期 第2四半期 累計 (A)	24.3期 第2四半期 累計 (B)	前年同期比 (B)-(A)	24.3期 修正通期予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
受注高	1,407	1,304	△ 103	2,840	45.9%
売上高	879	925	46	2,310	40.0%
営業利益 (率)	66 7.5%	82 8.9%	16	220 9.5%	37.3%

素形材・エンジニアリング事業

(単位：億円)

	23.3期 第2四半期 累計 (A)	24.3期 第2四半期 累計 (B)	前年同期比 (B)-(A)	24.3期 修正通期予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
受注高	224	344	120	510	67.5%
売上高	147	166	19	460	36.1%
営業利益 (率)	△ 14 △ 9.5%	5 3.3%	19	23 5.0%	21.7%

樹脂製造・加工機械が牽引し、売上高・利益とも前年同期比伸長
受注は、機能材・包材用途のフィルム・シート製造装置が前年同期比減少

売上高・営業利益

(単位：億円)

	23.3期 第2四半期 累計 (A)	24.3期 第2四半期 累計 (B)	前年同期比 (B)-(A)	24.3期 修正 通期予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)
樹脂製造・ 加工機械	372	445	73	1,120	39.7%
成形機	321	288	△ 33	680	42.4%
その他	186	192	6	510	37.6%
合計	879	925	46	2,310	40.0%
営業利益	66	82	16	220	37.3%

受注高

(単位：億円)

	23.3期 第2四半期 累計 (D)	24.3期 第2四半期 累計 (E)	前年同期比 (E)-(D)	24.3期 修正 通期予想 (F)	修正予想比 進捗率 (E)/(F)
樹脂製造・ 加工機械	729	568	△ 161	1,360	41.8%
成形機	352	336	△ 16	660	50.9%
その他	326	400	74	820	48.8%
合計	1,407	1,304	△ 103	2,840	45.9%

素形材製品が伸長し、受注高・売上高・利益とも前年同期を上回る

	売上高・営業利益					受注高				
	23.3期 第2四半期 累計 (A)	24.3期 第2四半期 累計 (B)	前年同期比 (B)-(A)	24.3期 修正 通期予想 (C)	修正予想比 進捗率 (B)/(C)	23.3期 第2四半期 累計 (D)	24.3期 第2四半期 累計 (E)	前年同期比 (E)-(D)	24.3期 修正 通期予想 (F)	修正予想比 進捗率 (E)/(F)
素形材製品 (鑄鍛鋼品)	101	130	29	340	38.2%	154	300	146	440	68.2%
エンジニアリング他	46	36	△ 10	120	30.0%	70	44	△ 26	70	62.9%
合計	147	166	19	460	36.1%	224	344	120	510	67.5%
営業利益	△ 14	5	19	23	21.7%					

※ 今期より、「鑄鍛鋼品」を「素形材製品」と表示しております。

[PART II]

2024年3月期 通期計画

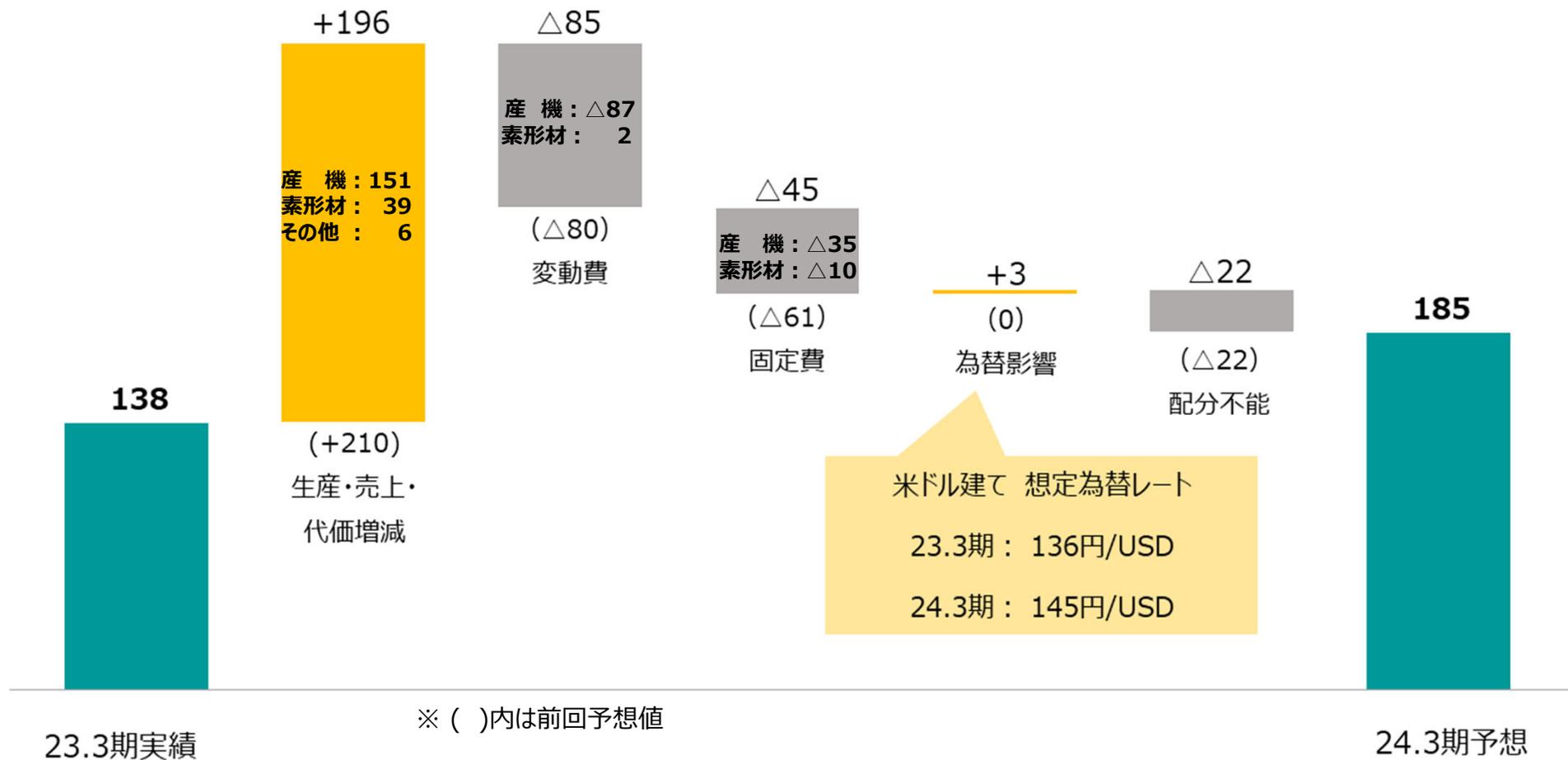
受注高を上方修正

(単位：億円)

	23.3期 実績 (A)	24.3期 当初予想 (B)	24.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
受注高	2,760	3,300	3,380	620	80
売上高	2,387	2,800	2,800	413	0
営業利益 (率)	138 5.8%	185 6.6%	185 6.6%	47	0
経常利益	149	190	190	41	0
純利益	119	140	140	21	0
1株当たり純利益 (円)	162.75	190.26	190.26	27.51	0
1株当たり 配当金 (円)	58.0	58.0	58.0	0.0	0.0

売上増・代価改善により、前期比47億円の増益を見込む

(単位：億円)



産業機械は、当初予想に対し減益の見込み 素形材は、当初予想に対し、受注伸長・増益を予想

産業機械事業

(単位：億円)

	23.3期 実績 (A)	24.3期 当初予想 (B)	24.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
受注高	2,331	2,840	2,840	509	0
売上高	2,029	2,310	2,310	281	0
営業利益 (率)	189 9.3%	230 10.0%	220 9.5%	31	△ 10

素形材・エンジニアリング事業

(単位：億円)

	23.3期 実績 (A)	24.3期 当初予想 (B)	24.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
受注高	411	430	510	99	80
売上高	339	460	460	121	0
営業利益 (率)	△ 8 △ 2.5%	13 2.8%	23 5.0%	31	10

樹脂製造・加工機械は、売上・受注 共に当初予想を上回る見込み
 成形機は、引き続き厳しい市況を受け、売上・受注ともに当初予想に達しないと予想

	売上高・営業利益					受注高				
	(単位：億円)					(単位：億円)				
	23.3期 実績 (A)	24.3期 当初予想 (B)	24.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)	23.3期 実績 (D)	24.3期 当初予想 (E)	24.3期 修正予想 (F)	前期比 (F)-(D)	当初予想比 (F)-(E)
樹脂製造・ 加工機械	922	1,060	1,120	198	60	1,073	1,315	1,360	287	45
成形機	658	740	680	22	△ 60	654	780	660	6	△ 120
その他	449	510	510	61	0	604	745	820	216	75
合計	2,029	2,310	2,310	281	0	2,331	2,840	2,840	509	0
営業利益	189	230	220	31	△ 10					

素形材製品は、電力・原子力製品が牽引し、当初予想を上回る受注を見込む
当初予想比増益の予想

売上高・営業利益

(単位：億円)

	23.3期 実績 (A)	24.3期 当初予想 (B)	24.3期 修正予想 (C)	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
素形材製品 (鑄鍛鋼品)	249	340	340	91	0
エンジニアリング他	90	120	120	30	0
合計	339	460	460	121	0
営業利益	△ 8	13	23	31	10

受注高

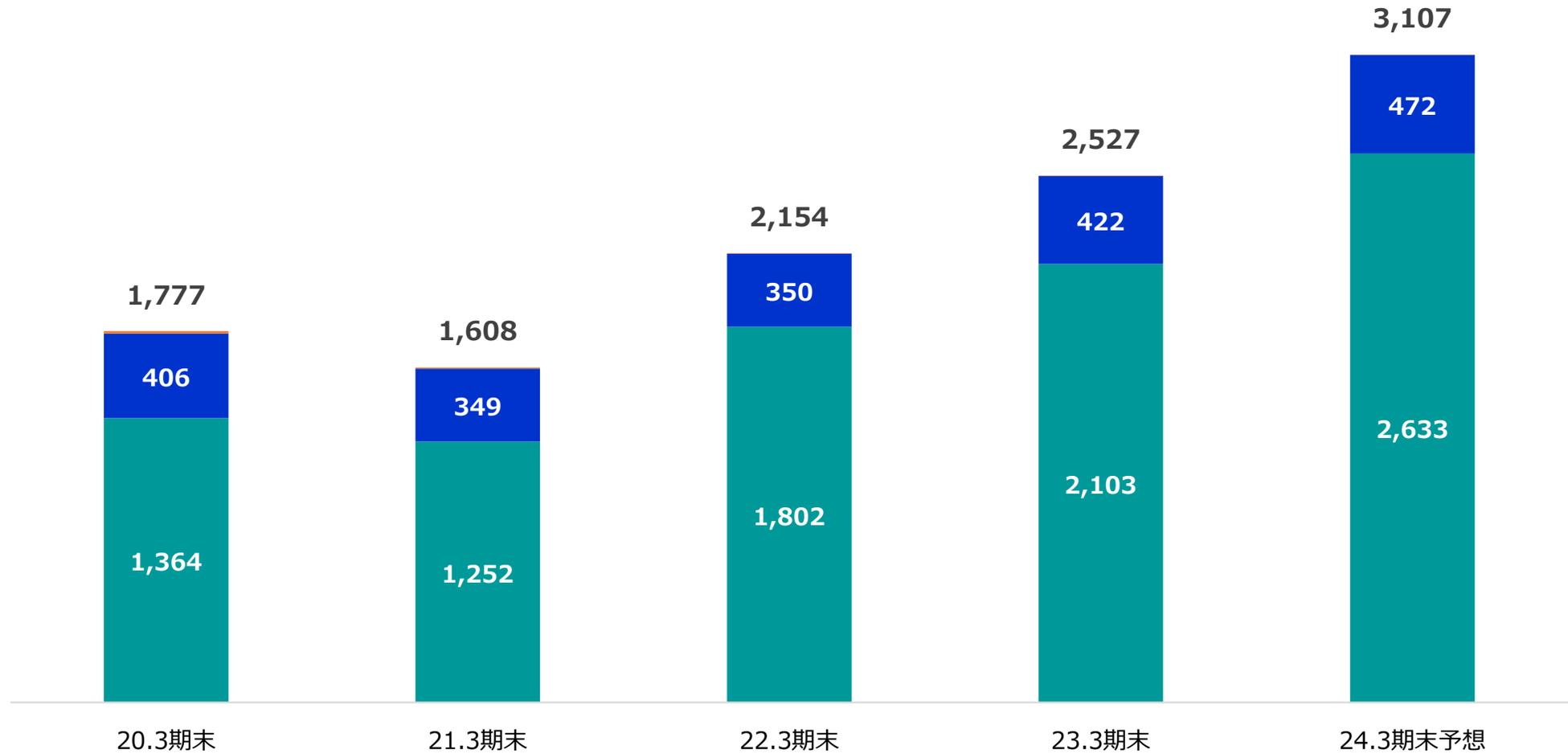
(単位：億円)

	23.3期 実績 (D)	24.3期 当初予想 (E)	24.3期 修正予想 (F)	前期比 (F)-(D)	当初予想比 (F)-(E)
素形材製品 (鑄鍛鋼品)	306	360	440	134	80
エンジニアリング他	105	70	70	△ 35	0
合計	411	430	510	99	80

セグメント別受注残高の推移

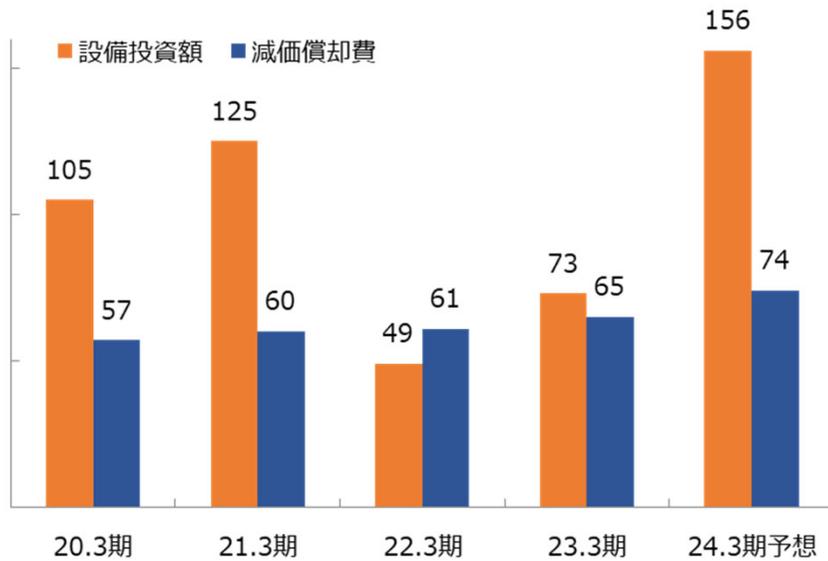
(単位：億円)

■ 産業機械 ■ 素形材・エンジニアリング ■ その他



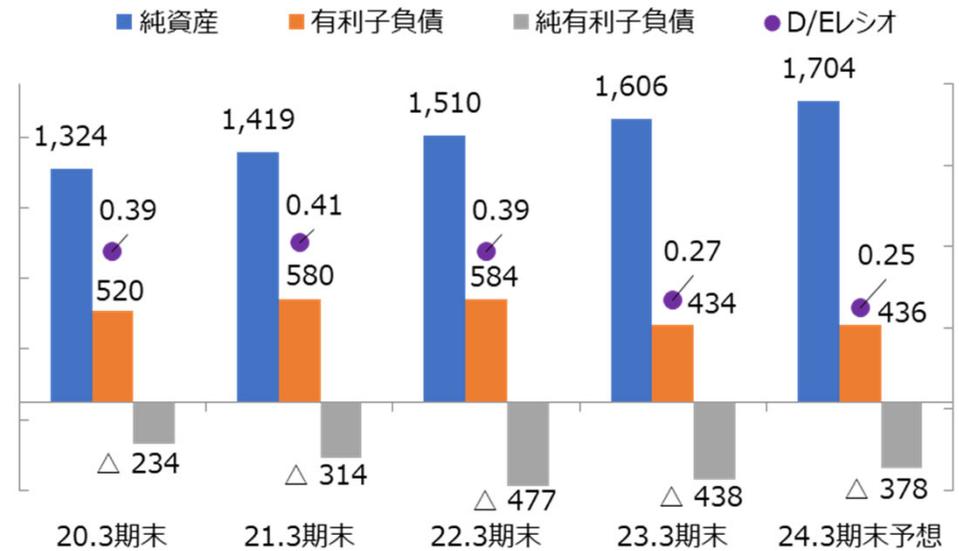
2024年3月期：設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

設備投資・減価償却費の状況

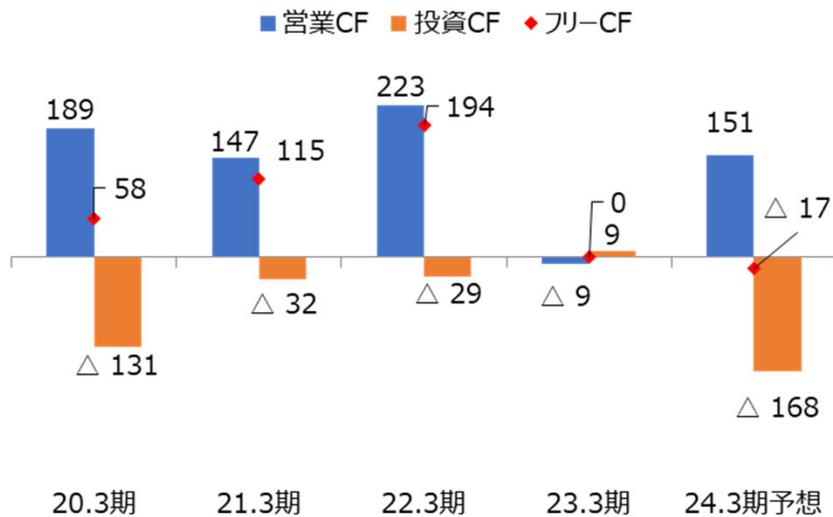


財務体質の状況

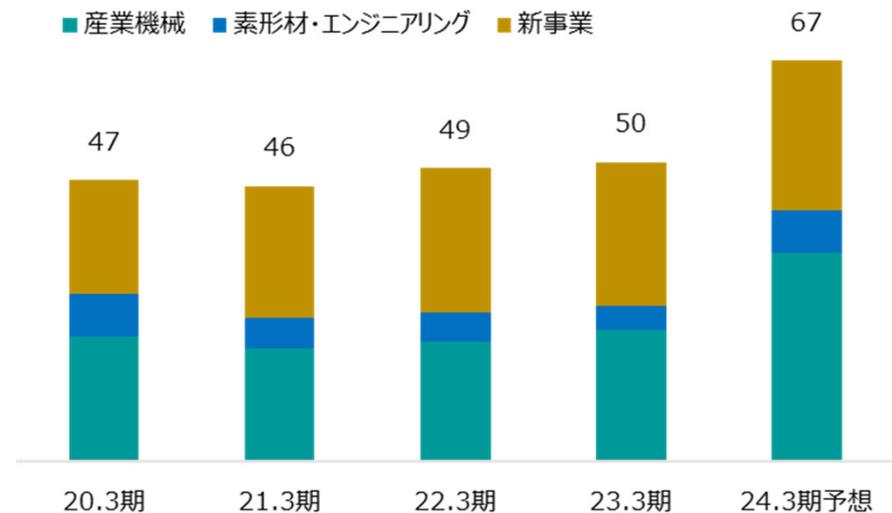
(単位：億円)



キャッシュ・フローの状況



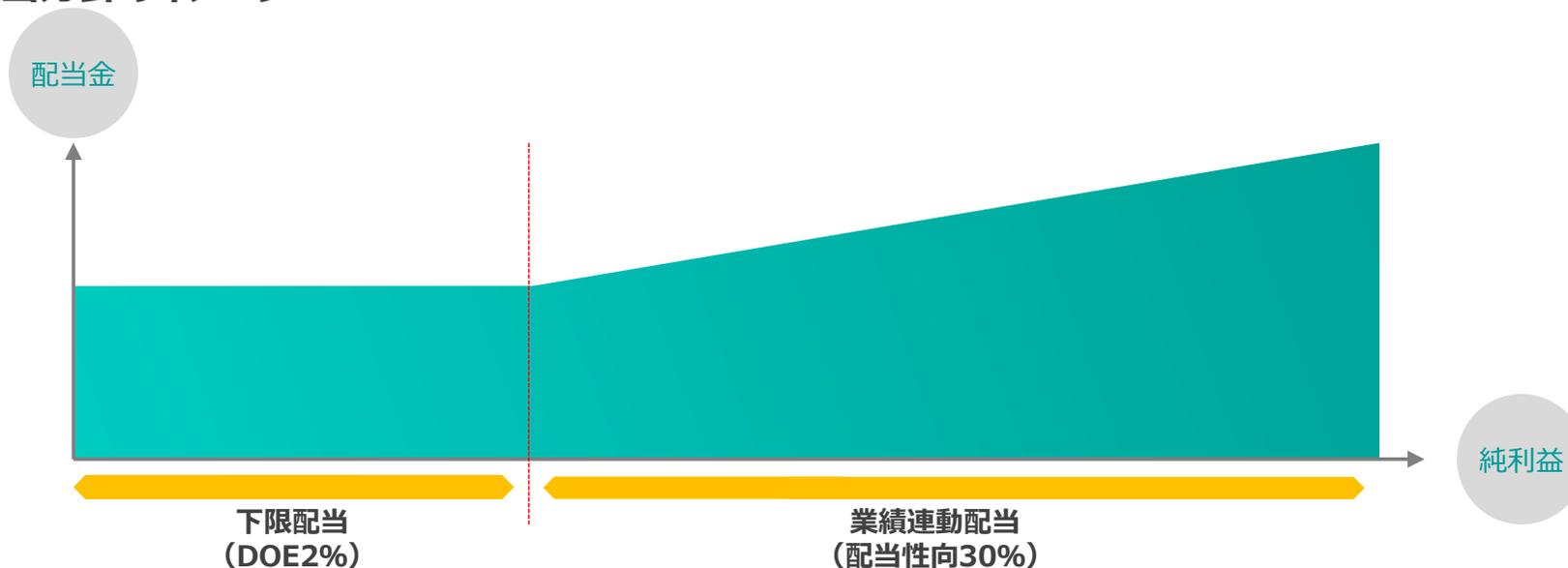
研究開発費の状況



■ 中期経営計画JGP2025 期間中の配当方針

「連結配当性向 30%以上」を目標とした上で、
「DOE（連結株主資本配当率） 2%」を下限に配当を実施。

■ 配当方針のイメージ



■ 直近の配当実績・予想： 中間配当は29円とし、年間配当は58円を予想（変更なし）

	22.3期	23.3期	24.3期	
			中間	年間(予想)
年間配当金 (円)	57.0	58.0	29.0	58.0
配当性向 (連結)	30.1%	35.6%	30.5%	

[PART III]

事業概況

産業機械事業 主要製品の今期受注概況

産業機械事業	景況感 (前期対比)	受注環境
フィルム・シート製造装置		<ul style="list-style-type: none"> ● EV用セパレータフィルム関連需要は、23.3期末の政策見極め等による投資決定遅延から回復。 ● 機能材・包材向け設備は、中国の景気減速に伴い需要停滞。
造粒機		<ul style="list-style-type: none"> ● 中国を中心として好調な市況が継続。 ● 太陽光発電の導入拡大により関連素材需要が増加傾向。
二軸混練押出機		<ul style="list-style-type: none"> ● 高機能エンジニアリングプラスチック需要が増加基調。 ● 厳しい市況下にも、次世代樹脂開発を目的とする、将来に向けた投資は増加。
プラスチック成形機		<ul style="list-style-type: none"> ● 市況は昨年度下期以降、依然厳しく推移。 ● 自動車向け更新投資に回復は見られるも、輸出向けの回復が遅延。 ● 欧州市場にて油圧から電動への切り替えの動きは継続。
マグネシウム成形機		<ul style="list-style-type: none"> ● 開発・上市した大型機は車載機器向けに好調。
FPD装置		<ul style="list-style-type: none"> ● 車載パネル向け需要等が堅調。
アフターサービス		<ul style="list-style-type: none"> ● 投資手控えが継続するも、下期の回復に期待。

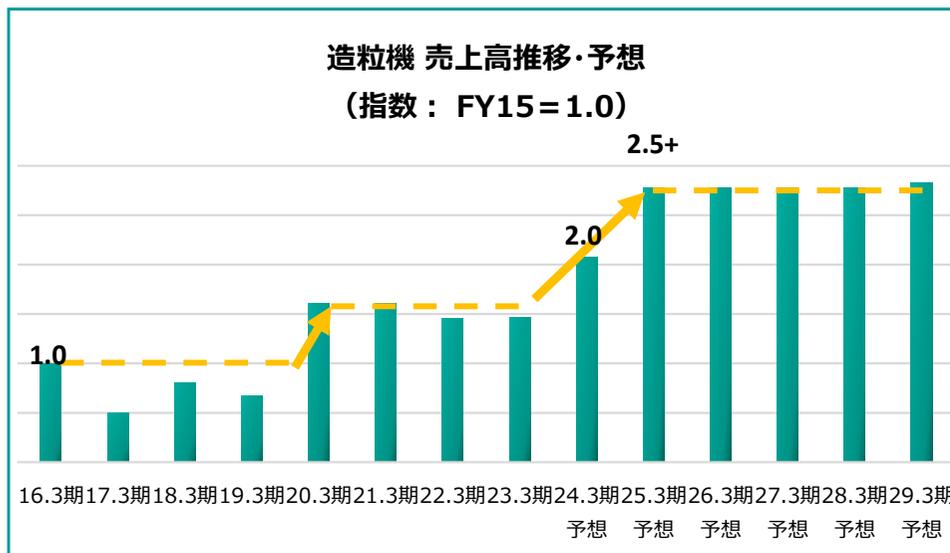
素形材・エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況

素形材・エンジニアリング事業	景況感 (前期対比)	受注環境
素形材製品		<ul style="list-style-type: none"> ● 電力製品の需要は堅調に推移。 ● 原子力製品需要が増加傾向、確からしさを増す。
エンジニアリング他		<ul style="list-style-type: none"> ● プラント改修工事等に期待

プラスチック需要増加を背景に好調維持、生産力強化で需要増に対応

- 経済成長と人口増及び用途拡大とを背景にプラスチックの需要は増加基調を継続の見通し。
- EV化やエネルギー転換による燃料油の需要減少に対応し、石油精製過程で化学品原料への生産転換が加速。
- エネルギー消費や環境負荷が少なくハイグレードな化学品を量産できるプラントの新設及び古い小型プラントの大型化更新計画が増加。

- 樹脂機械の生産能力増強と効率化、大型機の組立能力向上に向けた広島製作所の設備投資は順調に進捗。
- 新機械工場は、広島製作所のスマートファクトリー化に向けたパイロットプラントとして計画・設計中。



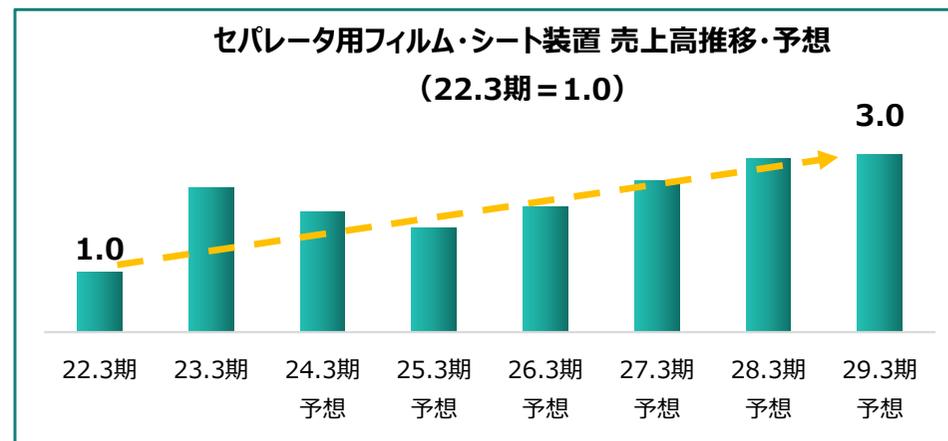
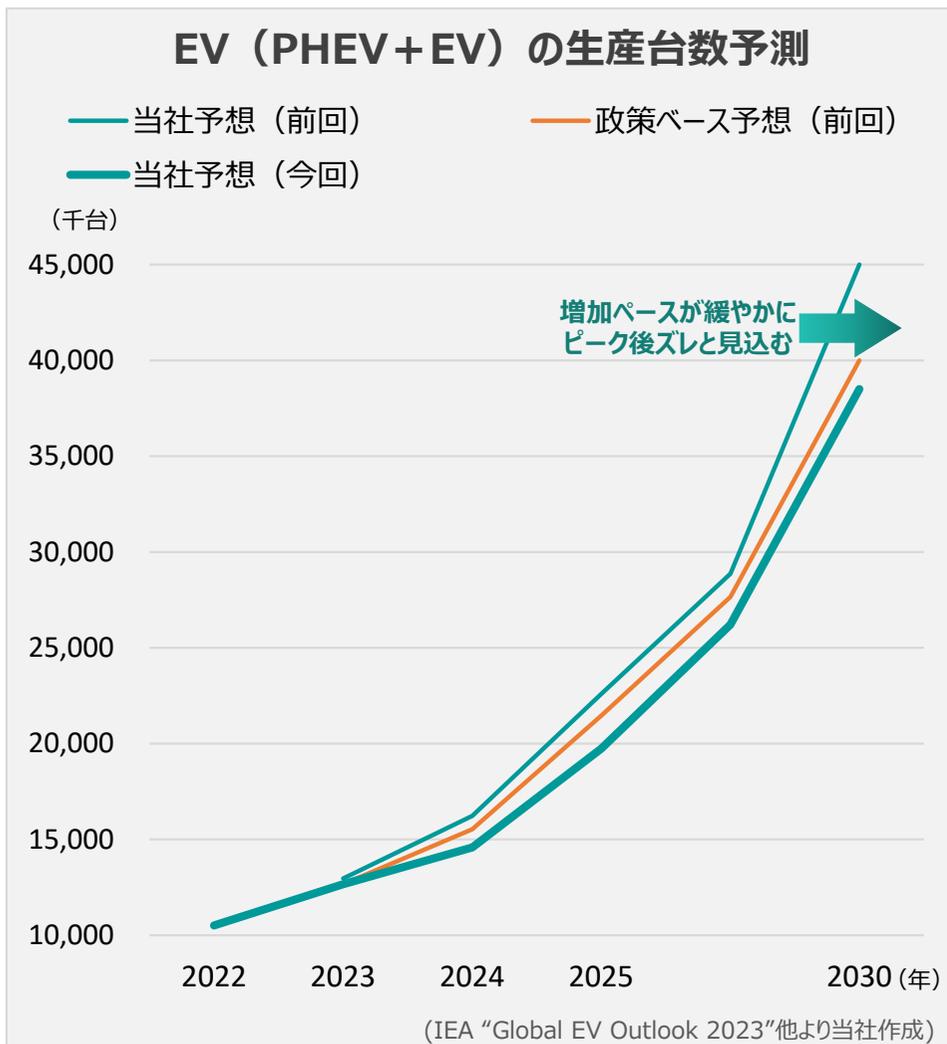
広島製作所における投資の進捗状況と見通し

	24.3期		25.3期		26.3期	
	下期	上期	下期	上期	下期	上期
第9組立工場	2023.10.12竣工、操業開始					
第10組立工場	建設等		建設等			
新機械工場	建設等					




竣工した第9組立工場

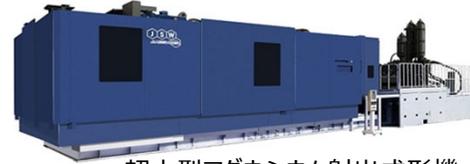
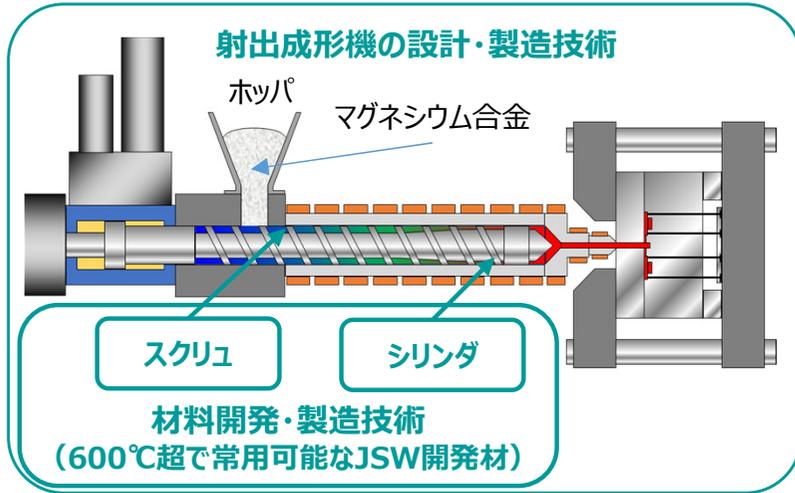
EV用バッテリー需要は中長期で増加と予測も、地域により温度差



- 中長期の需要増を見越し、顧客の投資意欲は継続。市場は、北米・欧・中の3極化が進む。
- 中国市場は、景気減速の影響と今後の政策動向を注視している状況。
- 北米では、IRAの施行もあり投資加速の動き、引き合いが増加している。
- 24.3期 上期に、幅広・高速化仕様の採用決定、受注。装置の生産性が大幅に向上し、高付加価値化および顧客の競争力強化に大きく貢献。
- 24.3期末までの年間60ライン体制構築は計画通り進捗。

成形機 - マグネシウム射出成形機事業の概要と展望

- 94年に実用第1号機を完成させて以来、累計700台以上のマグネシウム射出成形機を製造。



超大型マグネシウム射出成形機
JLM3000-MG II eL

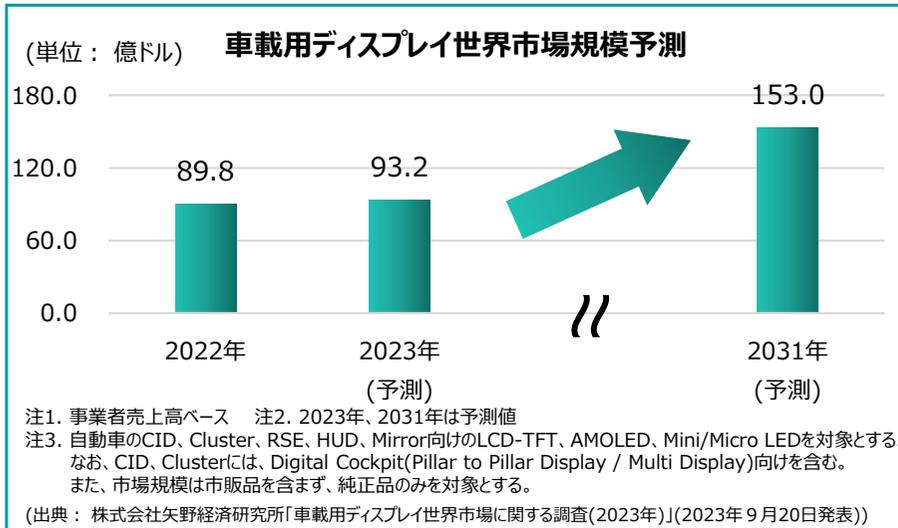
【成形品 (例)】

- 車載機器
 - ・ディスプレイメーターパネル
 - ・ECUケース
 - ・ヘッドアップディスプレイ
 - ・コンソール
- IT関連機器
 - ・PC・タブレット
 - ・スマートフォン
- その他
 - ・カメラ等

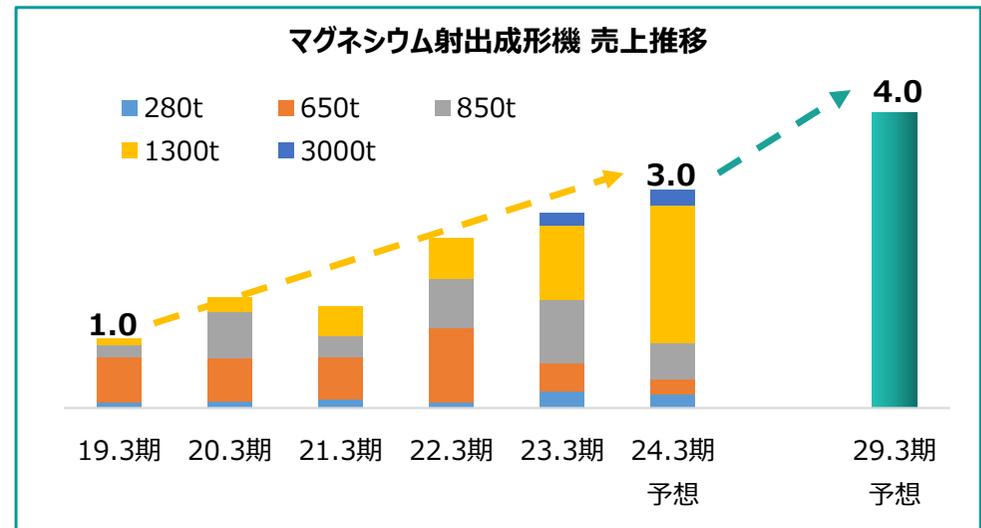


エムジープレジジョン(株) (成形受託会社)

- 車載ディスプレイの大型化・数量増加他に伴い市場規模は大幅に伸長の予測。

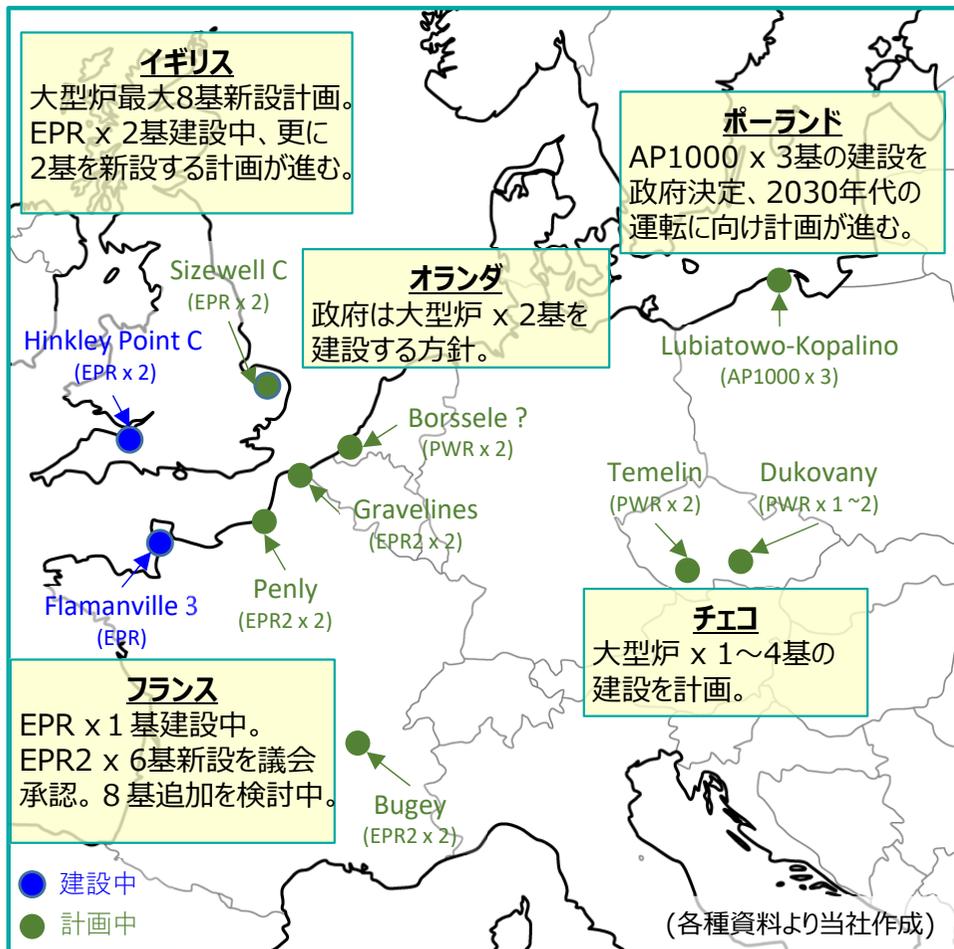


- 車載機器関連需要の伸長を受け、大型機の構成比が上昇し、売上は増加傾向。



各国における原子力政策の動向

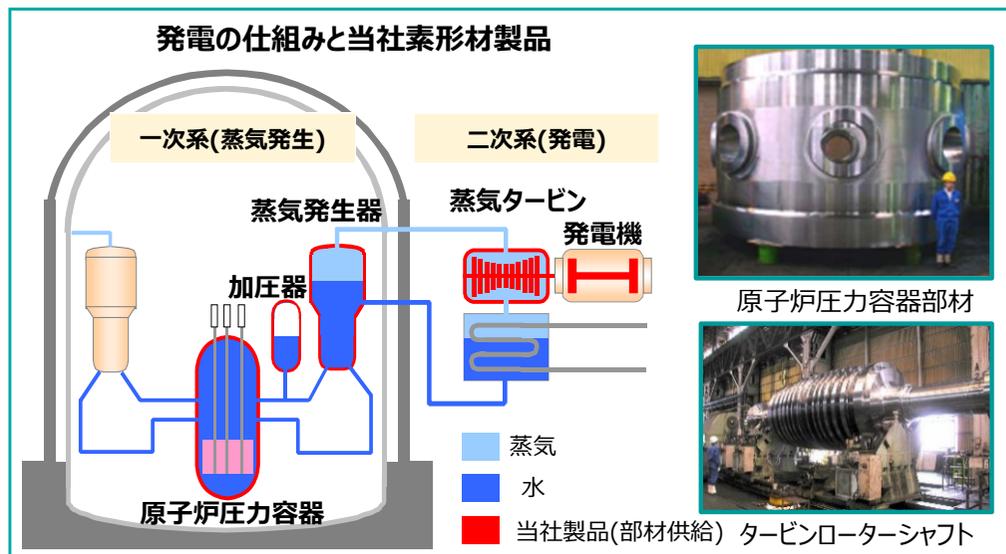
- 英・仏が欧州をけん引、大型軽水炉の建設計画が具体的に進む。



- 各国・地域の原子力規格への、豊富な対応実績・知見を活かしていく。

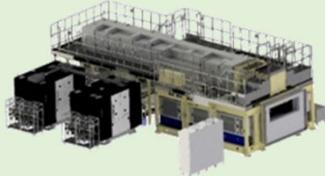
- 既設発電所の運転期間延長（国内・米国）方針に対応、二次系を含む機器更新需要を見込む。

		欧州以外の状況
アジア	日本	-再稼働促進 -既設炉の運転期間延長 -次世代革新炉建設（建替）の具体化の取組が進む。
	米国	-大型炉2基の新設：1基が23年7月に運転開始、残る1基は24年の運転開始を見込む。 -既設炉について、80年の運転許可取得が進む。
アジア	中国	25年までに70GWの原子力発電能力を整備する計画を背景に、新規建設が進捗。
	韓国	既存炉の運転期間延長、2基の建設再開、海外への原発輸出（30年までに10基）促進を目指す。



参考資料

事業セグメントの構成と主要製品

事業セグメント	産業機械事業	素形材・エンジニアリング事業	その他事業
事業組織	樹脂機械事業部、成形機事業部、産業機械事業部、特機本部	日本製鋼所M&E	新事業推進本部
生産拠点	<p>広島  横浜  名古屋 </p> <p>室蘭 </p>		
製品	<p>【樹脂製造・加工機械】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造粒機 ・フィルム・シート製造装置 ・二軸混練押出機 ・アフターサービス  <p>【成形機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック射出成形機 ・マグネシウム射出成形機 ・中空成形機 ・アフターサービス  <p>【その他産業機械】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エキシマレーザアニール(ELA)装置 ・防衛関連機器 ・鉄道製品 ・ホットプレス ・ラミネータ ・成膜装置 ・アフターサービス 	<p>【素形材製品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉圧力容器部材 (シェル、ヘッド他) ・蒸気発生器部材 ・ローター軸 ・タービンケーシング ・金型用鋼 ・製鉄用圧延ロール   <p>【クラッド製品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラッド鋼板  <p>【エンジニアリングサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラント・インフラ鋼構造物及び工事 ・非破壊検査・分析検査サービス ・水素蓄圧機・水素吸蔵合金タンク 	<p>【新事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> フォトニクス 複合材料 金属材料
市場	<p>石油化学 産業機械 自動車 IT 防衛</p>	<p>電力・鉄鋼 石油・天然ガス 自然エネルギー</p>	<p>新事業</p>

売上高・営業利益・純利益の推移

(単位：億円)

	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期
売上高	2,129	2,201	2,175	1,980	2,137	2,387
産業機械事業	1,702	1,736	1,714	1,563	1,711	2,029
樹脂製造・加工機械	502	525	613	588	621	922
成形機	645	727	653	545	653	658
FPD装置	-	164	-	-	-	-
その他	370	204	448	430	437	449
連結会社	185	116	-	-	-	-
素形材・エンジニアリング事業	408	412	428	385	400	339
素形材製品（鋳鍛鋼品）	-	-	196	199	254	249
電力・原子力	172	125	-	-	-	-
石油精製用圧力容器	10	-	-	-	-	-
クラッド鋼板・鋼管	70	130	128	105	60	-
エンジニアリング他	-	-	104	81	86	90
風力発電機	16	-	-	-	-	-
その他	55	95	-	-	-	-
連結会社	85	62	-	-	-	-
その他事業	17	52	46	31	26	18
営業利益	213	242	187	102	154	138
産業機械事業	238	235	192	139	177	189
素形材・エンジニアリング事業	△ 15	26	27	18	13	△ 8
その他事業	8	3	△ 4	0	0	△ 4
純利益	107	199	93	68	139	119

※21.3期より、集計区分を変更（20.3期より組み替えて表示しています）。

・「産業機械事業」の「連結会社」としていた3社（ジエムエンジニアリング社、ニチユマシナリー社、SM Platek社）を「樹脂製造・加工機械」に変更。

・「産業機械事業」の「FPD装置」「その他」「連結会社」を「その他」に変更。

・「素形材・エンジニアリング事業」の「鋳鍛鋼品」のうちの石油精製用圧力容器と、「その他事業」のうちの風力保守業務を、「素形材・エンジニアリング事業」の「エンジニアリング他」に変更。

主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

(単位：億円)

	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期
総資産	2,974	3,055	2,971	3,162	3,397	3,483
純資産	1,186	1,298	1,324	1,419	1,510	1,606
1株あたり純資産額 (円) ※17.3期以降は株式併合後	1,592.47	1,746.91	1,778.94	1,908.76	2,031.29	2,162.18
自己資本比率 (%)	39.3	42.0	44.0	44.4	44.0	45.7
自己資本利益率 (%)	9.6	16.3	7.2	5.1	9.6	7.8
営業活動によるキャッシュフロー	267	11	189	147	223	△9
投資活動によるキャッシュフロー	△50	△13	△131	△32	△29	9
財務活動によるキャッシュフロー	△24	△37	△61	27	△28	△201
現金及び現金同等物の期末残高	778	738	744	887	1,057	864

JSW Group

Purpose (パーパス)

JSWグループはなぜ社会に存在するのか

Material Revolution[®]

「Material Revolution[®]」の力で世界を持続可能で豊かにする。

Vision (ビジョン)

JSWグループはどこを目指すのか

社会課題を解決する産業機械と新素材の開発・実装を通じて
全てのステークホルダーに貢献する。

Value Creation Process (価値創造プロセス)

Vision (ビジョン) の実現に際し、独自の提供価値をどこに置くのか

JSWグループのコア・コンピタンス

「溶かす」「混ぜる」「固める」技術 **+** 「機械要素技術」「精密制御技術」

これらのコア・コンピタンスをより一層磨き、社会課題を解決する産業機械と新素材を開発・実装する「Value Creation Process (価値創造プロセス)」により、社会価値の創出と持続的な企業価値の向上を同時に実現していきます。

JSW 日本製鋼所